

平成24年度目白の100冊

No.	著者	書名	出版社	分野	推薦者のコメント
1	竹内 整一	日本人はやさしいのか	ちくま新書	倫理学	「やさしさ」の氾濫する現在の問題点を考え、日本文化の基層ともなっている「やさしさ」を思想的に吟味してみよう。
2	稲盛 和夫	生き方	サンマーク出版	哲学	人間として一番大切なこと、それは人を思いやる心です。作者の体験から様々な角度で人間の生き方を示した、当代随一の経営者が語る人生論です。
3	茂木 健一郎	セレンディピティの時代	講談社	哲学	偶然の幸運に会う能力「セレンディピティ」デジタル時代に失われがちな、人生における大切なこと。自分を変えるきっかけがほしい人はもちろんのこと、この能力の育成の視点から将来を構想してみたい人にもお勧めの1冊である。
4	シーリング,ティナ	20歳のときに知っておきたかったこと スタンフォード大学集中講義	阪急コミュニケーションズ	哲学	自分自身をしっかりと見つめ、物事の見方を変えることを促している図書です。特にリスクと失敗に対する姿勢に関するメッセージがありますので、今の学生にお勧めしたいと思います。
5	姜 尚中	悩む力	集英社新書	哲学	現代社会の猛烈な「変化」の中、自己肯定もできず、楽観的にもなれず、スピリチュアルな世界にも逃げ込めない人たちは、どう生きればいいのか？最後まで「悩み」を手放すことなく真の強さをつかみ取る生き方を提唱する一冊。
6	モリス	痛みの文化史	紀伊國屋書店	歴史	多くの挿絵や写真を好きなところから拾い読みしていくことで、痛みとは単なる原始的な神経記号ではないことがわかる。臨床心理学概論のサイド・リーダーに勧めたい。
7	たかのてるこ	ガンジス河でバタフライ	幻冬舎文庫	地理	就活でアピールすることがない！とインドに飛び出した筆者。初日に大泣きしながらも、徐々にインドの魅力に取り憑かれていく。旅を通して大学生が「進化」していく姿に、刺激を受けるはず！
8	東洋文化研究会	北京探訪一知られざる歴史と今	愛育社	地理	北京を愛する人々が書いたエッセイ集。幅広いジャンルの短文が収められており、興味のあるところだけを拾い読みしても面白いです。北京に行ったことのある人には懐かしく、また行ったことのない人にも北京を身近に感じられる作品です。
9	藤原 正彦	国家の品格	新潮新書	社会科学	現在進行中のグローバル化に対して「孤高の日本」であれと説く筆者の真意を知ろう。
10	マルクス=エンゲルス	共産党宣言	岩波文庫	社会科学	書名を見ると引いてしまうが、資本主義の全世界的な進展のくだりは、今で言う「グローバル化」のことであり、「闘争史観」は普遍的にいえることであり、何度読み返しても「鼓舞」される一冊。
11	村上 哲見	科挙の話ー試験制度と文人官僚	講談社	社会科学	かつて受験地獄という言葉が日本にあった。そのルーツがどこにあるのか、当時どのような試験が何のためにあったのか、本書が中国古代の試験制度を解明すると同時に、日中両国の競争システムの異同を考えるきっかけにもなる。
12	陳 天璽	無国籍	新潮社	社会科学	「国籍がない」という普通では考えられないような問題を横浜中華街生まれ・育ちの著者の半生を通して分かりやすく書いた本。読みやすく・分かりやすい内容なのだが、国家間の外交問題、国際紛争などの問題を身近な問題として考えるキッカケになる一冊だと思う。
13	マックス・ウェーバー	プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神	岩波文庫	社会科学	お金をもうけようと思うとなかなかたまたま、生活を合理的に律していくと結果としてお金持ちになる。筆者は、私たちに「ドケチの哲学」を教えてくれてはいるが、「金持ちへの近道」は教えてはくれない。
14	バートランド・ラッセル	幸福論	岩波文庫	社会科学 (哲学)	不幸に苦しんでいる多くの男女のために周到な努力によれば幸福になれるという信念に基づいて書かれた幸福獲得のための哲学的処方箋。
15	青木 保	多文化世界	岩波新書	社会科学	宗教や民族問題の先鋭化と同時にグローバル化に伴う一元化・画一化に直面している現代世界に、真の相互理解や協調は可能か。文化人類学者の視点で現代世界を読み解く。
16	トーマス・フリードマン	フラット化する世界(上・下)	日本経済新聞社	社会科学	新しい通信テクノロジーの出現によって、個人、企業、さらには国家のシステムが猛烈な勢いで変わろうとしている。「フラット化」という名の激変…。今まさに全世界で起きている巨大な変化を活写した「21世紀を生きる人の必読書」。
17	吉川 徹	学歴分断社会	ちくま新書	社会科学	筆者は、大卒/非大卒という分断線こそが、さまざまな格差を生むと主張する。高卒(中卒)は、大卒に比べて、まともな就職・結婚ができないともいう。「とりあえず大学を出なさい」とまで主張する筆者。
18	土井 隆義	友だち地獄ー「空気を読む」世代のサバイバル	ちくま新書	社会科学	現代の若者は過敏すぎるくらいに、つねに空気を読みながら、学校という人間関係が濃密な場で日々暮らしている。友だち地獄からの脱出はいかにして可能か。
19	岡本 夏木	幼児期一子どもは世界をどうつかむかー	岩波新書	社会科学	現代の子どもの育ちを「幼児期の空洞化」ととらえ、保育・心理学の観点からその対処を考察した名著。
20	河合 隼雄	昔話と日本人の心	岩波書店	社会科学	日本を代表するユング心理学者の著者が昔話のパターンから日本人の心性の深層を描き出した大作。皆になじみの深い物語には実は日本人の心の奥に今も息づく独自性が表れている。これを西洋の昔話の典型的なパターンとの比較から導き出し展開は読み手を日本文化についての深い考察に導いていく。
21	ジョエル アンドレアス	戦争中毒	合同出版	社会科学	20世紀の「国際化」の実体は「アメリカ化」でした。同盟国としてのアメリカと今後どのように付き合っていくかを考えるための材料になる本。漫画的なので大変読みやすい。国際政治や国際経済の理解も進む。名著。

平成24年度目白の100冊

No.	著者	書名	出版社	分野	推薦者のコメント
22	吉見 俊哉	ポスト戦後社会 シリーズ日本近現代史⑨	岩波新書	社会科学	バブルとその後の長期不況、深まる政治不信。社会不安。崩れゆく冷戦構造の中でこの国は次第に周回遅れのランナーになっていったのではないか。60年代半ばから現在まで、政治・経済・社会・家族…全てが変容し崩壊していく過程をたどる。
23	福岡 伸一	生物と無生物のあいだ	講談社現代新書	自然科学	生きているとはどういうことか？分子生物学がたどりついた地平を平易に明かし、目に映る景色をガラリと変える。美しい文章とエキサイティングな論理展開に、文系読者も思わず惹きこまれる科学エッセイの傑作。
24	本川 達雄	ゾウの時間ネズミの時間	中公新書	自然科学	動物の体のつくりや大きさは、なぜあの大きさなのでしょう。サイズあたりの消費エネルギー量に注目して分析した先生の送る、興味深い生物学。
25	小澤 竹俊	苦しみの中でも幸せは見つかる	扶桑社	自然科学	ホスピス医としての経験をもとに、苦しんでいる多くの人に命の大切や苦しみの中からもしっかりと生き続けられるスピチュアルケアの理論についてやさしく書かれています。苦しんでいる人を理解し支えるとは…。
26	産経新聞取材班	赤ちゃん学を知っていますか	新潮文庫	自然科学	あどけない赤ちゃんの秘められた実力にびっくり！そして「いのち」について、畏敬の念に胸を打たれます。
27	小川 正子	復刻版 小島の春	長崎出版	自然科学	ハンセン病治療に一生を捧げたある女性医師の手記 収容をめぐる苦悩
28	吉村 昭	三陸海岸大津波	文春文庫	自然科学	明治29年、昭和8年、35年。青森県・岩手県・宮城県3県に渡る三陸沿岸は三度大津波に襲われ、人々に悲劇をもたらした。大津波はどのようにやってきたか、生死を分けたのは何だったのか。前兆・被害・救援の様子を体験者の貴重な証言をもとに再現した震撼の書。
29	レイチェル・カーソン	沈黙の春	新潮文庫	工学	農薬を含む化学薬品の乱用がもたらす自然破壊の恐ろしさと人体のダメージを警告し、現代の環境運動・環境思想に影響を与えた名著。
30	西岡 常一	法隆寺を支えた木	NHKブックス	工学	昭和の宮大工が語る塔堂建築の朴訥な話。「砥ぎ三年」「鉋(かん)の刃を砥ぐ修業に長い年月をかける意味は…。
31	立花 隆	宇宙からの帰還	中央公論社	工学	宇宙を実感することは、物事を見る目(価値観)が変化するというよりも、事実を見る自分が豊かになるということ。性格が変わるということはどういうことかを考えるヒントになりそう。
32	小出 裕章	原発のウソ	扶桑社新書	工学	不屈の原子力研究者がその危険性を警告する。原発の今後、放射能から身を守るためにはどうすればよいか等様々な疑問にわかり易く答える。
33	柳澤 桂子	いのちと放射能	ちくま文庫	工学	なぜ放射能物質による汚染が恐ろしいのか、癌や突然変異が引き起こされる仕組み、大人より子供に影響が出やすい理由を生命学者がわかりやすく解説。私たちは原子力に頼って本当に良いのか、自覚を問う名著。
34	植松 努	NASAより宇宙に近い町工場 僕らのロケットが飛んだ	ディスカヴァー	技術(工学)	「どうせ無理」という言葉は使わない。地道な努力でチャレンジを！
35	宮脇 昭	鎮守の森	新潮文庫	産業	世界規模の森林破壊や地球温暖化が加速する現在、厳しい自然環境に耐えかつ大災害にも負けない森を再生させることが緊急の課題となっている。83歳の今も日本・世界で4000万本の植樹活動をしてきた植物学の権威が育てる「鎮守の森」の可能性を通して、地球を活かす道を指し示す。東日本大震災「瓦礫を活かす森の防波堤プロジェクト」の指導者。
36	西江 雅之	「ことば」の課外授業	洋泉社	言語	型破りな文化人類学者による「ことば」の解りやすく、また奥深い解説。ありふれた教科書では無視されてしまうようなことばの特徴や不思議を、美しい文章で語ります。
37	白井 恭弘	外国語学習の科学	岩波書店	言語	広告が氾濫し、混乱した外国語学習について現在の研究成果を整理し、今後の外国語学習法について指針を示します。外国語教育を志す人はもちろん、自分の外国語学習の指針が欲しい人にも有益。
38	長谷川瑞穂	英語総合研究一英語学への招待 改訂版	研究社	言語	英語史から、音声学、意味論、応用言語学、社会言語学まで幅広い分野をカバーし、それぞれにわかりやすく解説していて、この分野を専攻する学部生に最適。英語関連の分野を専攻するすべての学部生が知っておくべき、必須の専門的知識を提供してくれる。
39	山崎 正和	不機嫌の時代	講談社学術文庫	文学	モンスター○○なるものが出るくる時代。多くの人々がいらいらしながら時代を生きているのか？時代の背景がわかり、学生には一読を勧めたい。
40	井伏 鱒二	黒い雨	新潮文庫	文学	広島原爆の実状。
41	遠藤 周作	海と毒薬	角川文庫	文学	九州大学生体解剖事件の意味。
42	遠藤 周作	深い河	講談社文庫	文学	“生”と“死”を見つめる一冊。また、日本という文化の中で生きるキリスト者、仏教者とは何かという問いを通して宗教の意義に迫る。
43	遠藤 周作	沈黙	新潮社	文学	東アジアへのキリスト教の伝播を考えるよすがになります。
44	乙川 優三郎	霧の橋	講談社文庫	文学	父の死後、刀を捨てて商人へと転身した惣兵衛の日々を、藤沢周平を彷彿とさせる筆致で描いた江戸時代小説です。
45	夏目 漱石	三四郎	岩波文庫	文学	高校生、大学生のころには夏目漱石の作品をたくさん読みましたが、一番好きな(おもしろかった)と感じた作品でした。三部作としてこの後に続く『それから』『門』の中でもこれが私のお勧めです。

平成24年度目白の100冊

No.	著 者	書 名	出 版 社	分 野	推薦者のコメント
46	京極 夏彦	豆腐小僧双六道中 ふりだし～本朝妖怪盛衰録～	講談社	文学	主人公は豆腐小僧。紅葉豆腐をお盆に載せて手に持っているだけの、とりあえず「妖怪」である・・・豆腐を手から落としたり？ただの小僧になってしまうのか？ ダジャレの応酬に見せかけて、もしかしたら哲学本でもある黄表紙風読み物。
47	国木田 独歩	武蔵野	岩波文庫	文学	110年前の武蔵野を詩情鮮やかに描き出した名作。
48	三崎 亜紀	となり町戦争	集英社文庫	文学	いわゆる「不条理物」と言われる作品の一つ。ありえない設定のテレビドラマが横行する現代において、むしろこうした不条理の世界を読み解いていくことの楽しさを知ってもらいたい。
49	山崎 豊子	白い巨塔	新潮文庫	文学	暴かれた医療の暗部。
50	浅倉 卓弥	君の名残を（上・下）	宝島文庫	文学	平安末期の平家物語を舞台としたミステリー。現代と過去が交差しながら進む物語で、木曾義仲と巴御前、二人を取り巻く人々が登場。タイムスリップが軸になっているけれど、史実に沿った流れです。
51	司馬 遼太郎	燃えよ剣(上・下)	新潮文庫	文学	幕末の動乱を熱く生きた土方歳三の生涯に感銘した。
52	重松 清	流星ワゴン	講談社	文学	父子が不思議なワゴンに乗り込んで過去の旅をするという物語です。
53	村田 喜代子	蕨野行	文春文庫	文学	生と死が交差する極限地帯。
54	太宰 治	人間失格	集英社	文学	「恥の多い生涯をおくってきました」のフレーズでお馴染みの太宰の自伝でもあり、遺書だとも言われているこの作品。映画化もされた太宰作品には欠かすことができない名作。
55	辻 仁成	海峡の光	新潮文庫	文学	小学校時代に執拗に苛められた同級生が受刑者となり看守をしている自分の前にいる。互いの繊細な感情が美しく描かれています。
56	辻 邦生	安土往還記	新潮文庫	文学	南フランスの書庫で発見された古い書翰の断片。それは、16世紀に来日し織田信長と関わりを持ったイタリア人航海士の手によるもので、このほど仏語訳を経て日本語に翻訳された・・・という《凝った設定》のもとに描かれた、長編小説。
57	辻 邦生	春の戴冠（上・下）	新潮社	文学	イタリア・フィレンツェのウフィッツ美術館には、世界中の観光客を魅了する膨大な量のルネサンス名画が展示されています。嘗てメディチ家の牙城であったこの街を舞台に、ボッティチェリを軸にイタリアルネサンス期の美の巨匠が綺羅星のごとく現れる黄金期から翳りに至る時代を描く文化の香り高い歴史小説です。
58	南木 佳士	医学生	文藝春秋	文学	この本のいいところは、テーマのわりに押し付けがましくないところだと思います。何かの合間の時間にどうぞ。
59	有吉 佐和子	恍惚の人	新潮文庫	文学	高齢化社会と痴呆症を予言した先駆的作品。
60	沖方 丁	天地明察	角川書店	文学	江戸早期における暦の改変に人生を捧げ、後に幕府初代天文方となった渋川春海（安川算哲）の物語である。様々な困難を乗り越えながらも、あくなき真理を探求する春海の情熱は、現代社会の混迷を生きる私たちに大いに参考になる。学問の真理を追究する姿勢や社会で正しく生き抜く道標として私たちの日常を見直す良書であろう。
61	芥川 龍之介	鼻	新潮文庫	文学	『今昔物語』に材を得て、異形な鼻を持つ主人公の話は、現代人にも通じる人間の不安や自尊心を問う内容となっているのではないのでしょうか。
62	浅田 次郎	蒼穹の昴（1～4）	講談社文庫	文学	読み出したら、止まりません。中国の清朝末期の西太后を中心に物語は進みます。テレビドラマもいいですが、原作も面白いですよ。
63	浅田 次郎	輪違屋糸里	文藝春秋	文学	幕末の京都や花街が舞台。新選組の芹沢や土方が登場。花街で強く生きる女性の物語。ちなみに輪違屋とは、現在も京都の島原で営業している置屋兼お茶屋。
64	深沢 七郎	檜山節考	新潮文庫	文学	生産性が低く、日々食べる事欠く貧困地方「親捨て」の習慣がありました。ぎりぎりの環境で生きることと死ねることが描かれています。
65	三浦 綾子	塩狩峠	新潮文庫	文学	最後のクライマックスシーンは、道德の副読本に使われています。全編を通して人間の生き方について考えを深めることができます。
66	百田 直樹	永遠の0（ゼロ）	文春文庫	文学	凄腕を持ちながら、生に固執したゼロ戦闘機乗り宮部久蔵。なぜ「臆病もの」とまで言われながら「生きて帰る」ことに執着したのか。元兵士たちの口を通して浮かび上がる本当の人物像。遙かな時を超え結実した苛酷にして清冽な愛の物語。航空戦最前線で戦った人々への哀悼と尊敬の念で涙するでしょう。
67	村上 春樹	1Q84（1・2・3）	新潮社	文学	1949年にジョージ・オーウェルは、近未来小説としての『1984』を刊行した。そして2009年、『1Q84』は逆の方向から1984年を描いた近過去小説。そこに描かれているのは「こうであったかもしれない」世界…。話題のミリオンセラー。
68	山崎 豊子	大地の子（1～4）	文春文庫	文学	テレビドラマにもなったことのある本です。中国残留孤児の陸一心が中国でどのように育ったか、読むと中国の色々なことが分かり、面白いし、泣けるし、私は徹夜して読んでしまいました。
69	宮沢 賢治	銀河鉄道の夜	新潮文庫	文学	銀河を旅する少年たちが幸福と犠牲について考える。難解な面もあるが、現世を越えるイメージの美しさは圧倒的。

平成24年度目白の100冊

No.	著 者	書 名	出 版 社	分 野	推薦者のコメント
70	幸田 文	父・こんなこと	新潮文庫	文学	幸田文さんが父露伴から家事一切を教えられた話である。時代は違ってもそこに流れる心は今も通じると思う。
71	大江 健三郎	「自分の木」の下で	朝日出版社	文学	ノーベル賞作家の大江健三郎さんの、子どもの時代のエピソードがたくさん書かれている本です。やさしい言葉で大切なことを私たちに語りかけています。是非、皆さんも「自分の木」を探してください。
72	山田 風太郎	戦中派不戦日記	講談社文庫	文学	フータローの名作。
73	沢木 耕太郎	旅する力	新潮社	文学	旅を通して、人生の生き方、楽しみ方を描いたエッセイ。事前に『深夜特急』を読んでおくと、さらに良い。
74	川田 順三	曠野から	中公文庫	文学	文化人類学者による西アフリカ滞在記。アフリカ大地に生きる人々の世界を描きつつ、文化とは、コミュニケーションとは等々について透徹した文章で問いかけてくる。
75	向井 万起男	君について行こう（上下）	講談社プラスアルファ文庫	文学	宇宙飛行士向井千秋が挑んだ宇宙飛行について、その夫が楽しいエピソードを交えて描いています。
76	石牟礼 道子	苦海浄土一わが水俣病	講談社文庫	文学	公害病の原点。
77	日本戦没学生記念会編	新版 きけわだつみのこえ	岩波文庫	文学	学徒兵の叫び。
78	岡本 太郎	壁を破る言葉	イーストプレス	文学	悩んだときに元気がもらえる。
79	中野 美代子	西遊記の秘密一タオと練丹術のシンボリズム	岩波現代文庫	文学	『西遊記』の作品世界が中国人のどのような世界観に支えられて出来ているのかがよくわかります。中国文化の奥深さに触れることができます。同じ著者の『孫悟空の誕生——サルのみ話学と「西遊記」』もお薦めです。
80	金 薫	孤将	新潮社	文学	『孤将』は「文禄・慶長役」という事件を背景に権力対個人の無力や指揮官としての個人の苦悩、孤独が描かれた作品です。日本と韓半島の中世や戦争における人間群像を理解することができる。原作の文体は主人公視点でハードボイルド体。簡潔で解りやすいが、翻訳にもその独創性が反映されています。（翻訳者 蓮池 薫）
81	白州 正子	謡曲平家物語	講談社	文学	謡曲とは“能”の詞章のことです。“能”には『平家物語』を題材にした物語がたくさんあり、この「謡曲平家物語」は『平家物語』と“能”への入門書といってよいかもしれません。読み終えたら、早速能楽堂で幽玄の世界も堪能してください。
82	谷崎 潤一郎	陰翳礼讃	中公文庫	文学	日本人の体質にかかわる陰翳の美とはなにか。煌々と輝く灯りのもとより、ぼんやりとした行燈や蠟燭で浮かびあがる美もある。「節電」の昨今、みやびな日本固有の美を見直してはいかが…
83	長岡 弘樹	傍聞き	双葉社	文学	意外な結末に驚く、心温まるミステリー。
84	三浦 しをん	舟を編む	光文社	文学	辞書を編纂する仕事をする主人公の小説。辞書を改めて見直す機会になった。英単語を覚えては意味を説明しあう遊びも出てくる。書物を読まなくなった若者、ましてや辞書をひかなくなった学生には是非一読を勧める。2012年本屋大賞第一位を取った作品である。
85	藤谷 治	舟に乗れ！	ジャイブ	文学	音楽一家に生まれたチェリストの主人公は名門音大付属学校の受験に失敗、三流高校の音楽科に進学。そこで様々な人と出会い、改めて音楽と向き合う。スピード感のある物語、読み出したら止まりません！生きることの醜さ、その中にある美しさを音楽の魅力とともに教えられます。
86	ヘミングウェイ	老人と海	新潮文庫	文学	老漁夫サンチャゴは長い不漁にもめげず、たった一人で小舟で出漁する。残り少ないわずかの餌に巨大がカジキマグロがかかった。4日間にわたる死闘の末ついにカジキに勝利し、舟にくくりつけるが、帰路でサメに襲われ食いちぎられていく。魚を相手に闘う老人の勇気と自然の厳粛さ。
87	ドフトエフスキー	カラマーゾフの兄弟(亀山郁夫訳)	光文社	文学	世界の名著に必ず入るドフトエフスキーの名作だが、難解でも知られる。ドフトエフスキー研究者の亀山郁夫氏による新鮮な翻訳に注目。
88	山本 兼一	命もいらず、名もいらず	NHK出版	文学	幼い頃から剣の修行に励み、禅を学ぶことで剣聖と呼ばれ、書の達人でもあった。官位も金銭にも執着しなかったため極貧。徳川慶喜のために身を賭し、江戸無血開城に奔走。朝敵であったにもかかわらず、明治天皇の教育係となる。それは名譽のためではなく国家百年を超えた無私の行いであった。最後のサムライ山岡鉄舟の見事な生きざま。
89	James Hilton	チップス先生さようなら	新潮社	文学	高校生のときに原書を英語のサイドリーダーの授業で読みました。日本語訳と両方で読み合わせると、原文の味わいを感じました。また、この本からイギリスという国の一端にふれたことが、その後イギリスに留学することにつながったのかもしれません。
90	サリンジャー	ナイン・ストーリーズ	新潮文庫	文学	その名のとおり9つの短編集です。サリンジャーといえば『ライ麦畑でつかまえて』が大変有名ですが、この短編集もまた傑作だと私は思います。様々な人々の不思議で奥深い物語は、何度読んでもあきません。
91	パール・バック	大地	岩波文庫	文学	長い小説ですが中国で生まれ育ったパールバックの代表作です。主人公王龍から始まる父子三代に亘った物語は、新しく生まれ変わろうとする中国を舞台に壮大なスケールで描かれています。

平成24年度目白の100冊

No.	著 者	書 名	出 版 社	分 野	推薦者のコメント
92	ヒュー・ロフティング	トリトル先生アフリカ行き	岩波少年文庫	文学	動物の言葉がわかるお医者さんの話。ストーリーは荒唐無稽なところがあるが、動物の味方になって活躍する先生と、それを助ける動物たちの動きが面白い。井伏鱒二訳の日本語が素晴らしいので、日本語力をつける参考に勧める。
93	フォレスト・カーター	リトル・トリー	(株)めるまーく	文学	少年リトル・トリーの森での至福の日々、祖父の粗野ではあるが真実の教え、山の草木やけものたちとの語らいの中に「生きる」ということを考えさせてくれる物語。
94	イシメール・ヘア	戦争から生きのびて ぼくは少年兵士だった	河出書房新社	文学	アフリカ・シエラレオネの内戦において、少年兵士として人類史上最悪と言われる戦闘を経験した筆者が、そのあまりにも過酷な体験と、心の傷の回復について語る内容はとても鮮烈です。
95	テンプル・グランディン	我、自閉症に生まれて	学研	文学	自閉症者本人が世界で始めて書いた本として有名です。自閉症だけに限らず、障がいを理解するためには当事者の内面を知ることが大切です。当事者が感じる、生きていくうえでの困難さや苦しみこそ、私たちが本当に理解しなくてはいけないことなのかもしれません。
96	ヴァージニア・アクスライン	開かれた小さな扉	日本エディターズスクール	文学	情緒障害（今の概念では自閉症と思われる）の男の子に行なった遊戯療法の物語。心を閉ざした子どもと、どのように接すればよいかを教えてくれる。特別支援教育の必要がいわれる現在、すべての人に知ってほしい事柄である。
97	ミッチ・アルボム	モリー先生との火曜日	NHK出版	文学	私たちはなぜ生きているか。老いるとは、他者を知るとは、他者の気持ちを受け止めるとは、多くの示唆に富んだ作品です。
98	ユン・チアン	ワイルド・スワン（上・中・下）	講談社	文学	清朝末期から文化大革命期に至る激動の中国を生き抜いた祖母・母・娘3代の物語です。衝撃的な出来事が次々に起こりますが、それを誇り高い態度でたくましく乗り越えようとする彼女たちの姿が、大変魅力的です。
99	ヴィクトール・E・フランクル	夜と霧	みすず書房	文学	「心理学を学ぶ者は必ず読みなさい」と大学時代の先生に言われましたが、その重さに圧倒されなかなか読むことができませんでした。数年前に出版された新訳版は旧版とはさまざまな点で異なりますが、その分、読みやすくわかりやすくなったように思います。心理学を学ぶ人だけでなく人が生きることについて関心がある人はぜひ読んでみてください。
100	サン＝テグジュペリ	夜間飛行	新潮文庫	文学	安物の「優しさ」「愛」がはびこる現代社会の中で、人間の勇気とは何か、あるいは尊厳とは何かということを問い直せる作品である。作者サン＝テグジュペリは、『星の王子さま』の作者として有名であるが、この作品で「フェミナ賞」を受けている。

評論部門指定図書(H24)  
 読書と思索大賞部門指定図書(H24)